

# ご あ い さ つ

子どもたちは、社会の宝であり、私たちの未来です。

私たち大人は、子どもたちの限りない力を信じて、未来を託す子どもたちの個性と可能性を伸ばし、健やかに育てていく責務を負っています。

我が国は既に人口減少社会に入っており、今後少子化・高齢化が一層進むと予測されています。本県においても、他県と比べて若干の遅れはあるものの、人口減少社会へ突入していくことは避けられない状況となっています。このような見通しの中、本県が「ものづくり愛知」としての活力を維持し、持続的に発展していくために、今までにも増して教育の力が重要になってきています。

教育には、人格の完成を目指すという崇高な目的があります。その目的のために、地方公共団体の長は、地域の実情を踏まえた教育に責任を持つ必要があります。それは、教育の大きな目標や方針についてはその地方公共団体の長が示し、日常の教育活動については学校現場が担い、環境整備や学校支援等の教育行政については教育委員会が専門的見地から行う、という役割を互いに連携しながら果たすということです。

このような認識の下、このたび教育委員会と共に平成 32 年度までの教育振興基本計画を、「あいちの教育ビジョン 2020 -第三次愛知県教育振興基本計画-」として策定しました。この中で、基本理念を『自らを高めること』と『社会に役立つこと』を基本的視点とした『あいちの人間像』の実現とし、その人間像を五つの観点から示しました。この基本理念と、『あいちの人間像』を実現する五つの基本的な取組の方向』とを合わせて、「愛知の教育に関する『大綱』』としています。また、それを踏まえて、今後5年間で取り組むべき28の取組の柱と施策について記しています。

県として、本ビジョンをもとに「あいちの人間像」の実現に向けて全力を傾注してまいります。しかしながら、愛知の教育の推進のためには、市町村、家庭、地域、学校等との連携、協働が不可欠です。県民の皆様には、それぞれのお立場でお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

最後に、本ビジョンの策定に当たり、第三次愛知県教育振興基本計画(仮称) 検討会議委員を始め、教育関係者や県民の皆様から貴重な御意見、御提言をいただきましたことに対し、深く感謝を申し上げます。

平成 28 年 2 月

愛知県知事  
大村秀章



# 目 次

## はじめに

1 計画策定の趣旨	1
2 計画の性格	1
3 計画期間	1

## 第1章 あいちの教育がめざす姿

1 基本理念	4
2 「あいちの人間像」への思い	5
3 「あいちの人間像」を実現する五つの基本的な取組の方向	10
(1) 個に応じたきめ細かな教育を充実させ、一人一人の個性や可能性を伸ばします	10
(2) 人としての在り方・生き方を考える教育を充実させ、道徳性・社会性を育みます	11
(3) 健やかな体と心を育む教育を充実させ、たくましく生きる力を育みます	12
(4) 未来への学びを充実させ、あいちを担う人材を育成します	13
(5) 学びがいのある魅力的な教育環境づくりを進めます	14
4 基本的な取組を推進するに当たっての四つの視点	15
(1) 生きる力を育む家庭・地域・学校の取組の連携強化	15
(2) 学校種・学校設置者の枠を越えた学びの連続性の重視	17
(3) 教育委員会・首長部局・関係機関相互の連携	18
(4) 国籍・言葉・文化等の違いを越えた多様性の尊重	18
イメージ図	19

## 第2章 取組の柱と施策の展開

1 個に応じたきめ細かな教育を充実させ、一人一人の個性や可能性を伸ばします	
(1) 個に応じたきめ細かな指導の充実	22
(2) 多様な学びを保障する学校・仕組みづくり	26
(3) 特別支援教育の充実	30
(4) 外国語教育の推進	34
(5) 理数教育の推進	38
(6) 情報教育の充実	40
(7) 日本語指導が必要な子どもたちへの支援の充実	42
(8) 貧困状態にある子どもたちへの支援の充実	44

<b>2 人としての在り方・生き方を考える教育を充実させ、道徳性・社会性を育みます</b>	
(9) 道徳教育の充実	46
(10) 人権教育の推進	48
(11) いじめ・不登校等への対応の充実	50
(12) 主権者教育の推進	54
<b>3 健やかな体と心を育む教育を充実させ、たくましく生きる力を育みます</b>	
(13) 家庭教育・子育ての支援の充実	56
(14) 幼児教育の充実	58
(15) 健康教育・食育の推進	60
(16) 学校体育の充実	62
(17) 安全教育の推進	64
<b>4 未来への学びを充実させ、あいちを担う人材を育成します</b>	
(18) 社会人・職業人としての自立に向けたキャリア教育の推進	66
(19) グローバル化への対応の推進	70
(20) 環境教育・ESDの推進	74
(21) 「オリンピック・パラリンピック教育」の推進	76
(22) 伝統文化・文化財の継承と新たな文化の創造	78
(23) 生涯学習・スポーツの推進	80
<b>5 学びがいのある魅力的な教育環境づくりを進めます</b>	
(24) 教員の養成・採用・研修の改善	82
(25) 開かれた学校づくりと多忙化解消への支援	84
(26) 学校施設・設備の充実	88
(27) 大学等高等教育の振興	90
(28) 私立学校の振興	92

### 第3章 計画の推進

1 計画の推進に当たって	96
2 指標の設定	96

#### ○ 参考資料

1 策定の経緯	98
(1) 第三次愛知県教育振興基本計画(仮称) 検討会議における審議	98
(2) 策定までの流れ	98
2 県政世論調査(概要)	101
3 教育基本法	103



# はじめに

## ① 計画策定の趣旨

本県では、平成 19 年 4 月に、教育の総合的な方向性を示す「あいちの教育に関するアクションプラン」(以下「アクションプラン I」という。)を策定し、「家庭・地域・学校の協働による教育」を推進してきました。その中で、小・中学校における県独自の少人数学級編制の実施や、魅力ある県立高等学校づくりとしての総合学科の設置拡大を始めとした様々な施策を実施するなど、成果を着実に上げてきました。

そして、平成 23 年 6 月には、アクションプラン I の基本理念と、家庭・地域・学校の協働による教育を推進するとの考え方を引き継ぎながら、「あいちの教育に関するアクションプラン II」(以下「アクションプラン II」という。)を策定しました。その中で、「幅広い県民の参加により道徳性・社会性の向上を図ります」「発達段階に応じたキャリア教育を充実します」「学習意欲の向上を図り確かな学力を育成します」「豊かな人生を送るための生涯学習を充実します」の四つの重点目標を定めて、その基盤となる「魅力ある教育環境づくり」とあわせて施策を実施し、あいちの教育を一層推進してきました。

この間、グローバル化や技術革新が加速度的に進展し、子どもたちを取り巻く社会も、いまだかつてないほどのスピードで変化してきました。この変化は、今後も一層進むことが予想されており、一人一人が多様な個性や能力を伸ばすとともに、個人や社会の多様性を尊重してそれぞれの強みを生かし、新たな価値を創造する社会を目指していく必要があります。

このような背景を念頭に、アクションプラン I・II の基本理念を継承しつつ、新たな課題や今後育むことが求められる資質・能力などを踏まえて、本県が今後取り組んでいく新たな計画を策定することにしました。

## ② 計画の性格

本ビジョンを、教育基本法第 17 条第 2 項に規定する本県の教育振興基本計画として位置付けるとともに、本ビジョンにおける「基本理念」と「『あいちの人間像』を実現する五つの基本的な取組の方向」を、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 3 に規定する「大綱」として位置付けます。

## ③ 計画期間

平成 28 年度(2016 年度)から平成 32 年度(2020 年度)までの 5 年間



# 第1章

## あいちの教育がめざす姿



- ① 基本理念
- ② 「あいちの人間像」への思い
- ③ 「あいちの人間像」を実現する五つの基本的な取組の方向
- ④ 基本的な取組を推進するに当たっての四つの視点

## ① 基本理念

これまで、アクションプラン I・II に掲げてきた「基本理念」を、本ビジョンでも継承します。

「基本理念」のうち、めざす「あいちの人間像」については、グローバル化や技術革新が急激に進み、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤となる「知識基盤社会」<sup>1</sup> となってきたことなどを踏まえ、内容を見直しました。この人間像は、家庭教育・学校教育にとどまらず、生涯学習社会において、あいちに生きる人間の理想とする姿を、五つの観点から捉えたものです。

### 基本理念

「自らを高めること」と「社会に役立つこと」を基本的視点とした  
「あいちの人間像」の実現

#### めざす「あいちの人間像」

##### 【共に生きる】

自他の命を大切にし、多様な人々の存在を尊重して生きることのできる人間

##### 【自分を生かす】

互いに切磋琢磨<sup>せつさたくま</sup>し、自らの力を社会に生かすことのできる人間

##### 【学び続ける】

生涯にわたって健やかな体と心をつちかい、学び続けることのできる人間

##### 【あいちを創る】

あいちの伝統と文化、「ものづくりの精神」を継承し、新たな価値を生み出すことのできる人間

##### 【世界にはばたく】

次代を展望し、世界に視野を広げ活動することのできる人間



## ② 「あいちの人間像」への思い

### 【共に生きる】

#### 自他の命を大切にし、多様な人々の存在を尊重して生きることのできる人間

国籍の違い、言葉の違い、文化や生活習慣の違い、障害の有無、性別等に左右されることなく、一人の人間として多様な存在を尊重し、共に生きようとする心を持った人間

新たな命の誕生は、世界にただ一つ、無限の可能性の誕生です。一人一人の命は、かけがえないものであり、自分の命はもちろん、自分以外の人の命も尊いものです。

「自他の命を大切にする」。当たり前のことではありますが、具体的に何をすれば、あるいは、何をしなければ「命を大切にすることになるのでしょうか。

子どもたちは、幼い頃から生き物に関わる多くの生活体験の中で、一度失った命は二度と取り戻せないこと、命のあるものはいつか死を迎えることなどを知ります。しかし、最近では、自然体験の減少や家庭環境の変化などによって、命の大切さについて体験的に学ぶ機会が減っていると言われています。

人格形成の大切な時期を生きる子どもたちにとって、「自他の命を大切にすることの意味が具体的な行動としてイメージできるよう、家庭・地域・学校で保護者や地域の大人、教師が子どもたちと共に考え、語り合ってもらいたいと願っています。そして、決して奪うことも奪われることもなく、命が厳然としてかけがえがなく尊いものであることを、子どもたちと共に確かめてほしいと願っています。

命はまた、人としての存在そのものでもあります。人には、それぞれに個性があります。自分の持ち味を生かして活躍できる、互いの存在を認め合える、そのような人間を目指していきたいと考えます。

「多様な人々の存在を尊重する」。ここには、国籍の違い、言葉の違い、文化や生活習慣の違い、障害の有無、性別等に左右されることなく、多様な人々の存在をそれぞれ一人の人間として、同じ大切な仲間として尊重し、共に生きようとする心を持った人間になってほしい、という願いをこめています。

1 知識基盤社会：平成17年の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」で示された言葉。答申の中で、「21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる『知識基盤社会』(knowledge-based society)」の時代である」と述べられている。

また、「知識基盤社会」の特質として、以下のことを挙げている。

(1) 知識には国境がなく、グローバル化が一層進む。

(2) 知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる。

(3) 知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要となる。

(4) 性別や年齢を問わず参画することが促進される。 等

**【自分を生かす】****互いに切磋琢磨<sup>せつさたくま</sup>し、自らの力を社会に生かすことのできる人間**

価値観が多様化する社会の中で、互いに磨き合って自分の持つ力を高めていき、その力をこれからの社会に生かしていくことのできる人間

グローバル化が進展する社会においては、今までの解決方法が通用しない問題、あるいは、今まで経験したことがない問題に突き当たることが多くなり、それらを協働的に解決しなければならない場面が増えると言われています。しかし、多様な価値観がある中で解決方法を導くための議論は、ともすると互いの価値観のぶつかり合いとなってしまう、問題解決を難しくすることがあります。

多様な価値観が存在しているということは、言い換えれば、様々な発想のヒントがそこにあるということです。自分の考えに固執して互いに主張し合うのではなく、互いの価値観を認め合いながら、その状況において最も適切な解決方法を協働して探ることが大切となります。そして、考えの異なる他者と共に、問題の解決に向けて行動することが重要です。

学校教育においても、アクティブ・ラーニング<sup>2</sup>という学びの方法によって、課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学んでいくことが求められています。これは、情報を他者と共有しながら議論する中で、互いの見方・考え方の共通点や相違点を理解し、相手の考えに共感したり多様な考えを統合したりして、協力しながら課題を解決していく学び方です。

このような学び方を通して高めた自分の力は、自分の未来を切りひらくと同時に、新しい社会をつくっていく力となるものです。子どもたちには、自分の人生の主人公として輝くために、価値観が多様化する社会の中で、互いに磨き合って自分の持つ力を高めてほしい、そして、その力をこれからの社会に生かしてほしいと願っています。



2 アクティブ・ラーニング：教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

**【学び続ける】****生涯にわたって健やかな体と心をつちかい、学び続けることのできる人間**

新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増している社会の中で、自分のさらなる成長を信じて学び続けることができる人間

いつまでも健やかに生きることは、誰もが願うことです。その願いをかなえるためには、自ら体力を向上するために運動したり、健やかに生活するための習慣付けをしたりするなど、健やかな体と心を自ら培っていこうとする意識を高めていくことが必要です。そして、その基盤の上に社会生活が営まれ、未来を生き抜くための学び、自己実現<sup>3</sup>のための学びが展開されていきます。

今の社会は、「知識基盤社会」<sup>4</sup>と言われ、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会とされています。この社会においては、知識等は日々新しいものに更新されて、それまでのものはすぐに古くなってしまおうという特徴を持っています。そのため、年齢や性別等に関わらず、新しい知識や情報、技術を身に付けられるよう常に学び続け、自ら思考し判断することが大切となります。

また、学びには、生きがいという側面もあります。自分らしさを発揮し、自己実現を図っていくところに、人生の目的を見いだすことができます。一人一人が、自己実現の達成感を味わえるように、自らの学びを創造してほしいと願っています。

生涯にわたって学び続けること。「人間、死ぬまで勉強」という言葉がありますが、生涯学習社会に生きる人間として常に向上心を持ち、自分のさらなる成長を信じて学び続けることができる人間を理想としたいと考えます。



3 自己実現：アメリカ合衆国の心理学者・A・マズローによって理論化された「マズローの欲求段階説」の中で最も高次の欲求。この説では、人間は低次の欲求が満たされると次の欲求へ向かうとしている。マズローは、人間の欲求を低次のものから順に、「1生理的欲求・2安全の欲求・3所属と愛の欲求・4承認（尊重）の欲求・5自己実現の欲求」と定義した。

4 知識基盤社会：P.5に掲載

**【あいちを創る】****あいちの伝統と文化、「ものづくりの精神」を継承し、新たな価値を生み出すことのできる人間**

ものづくりに携わり発展させてきた人々の「創意工夫」「堅実さ」「まじめさ」「根気強さ」「緻密さ」などの精神を大切にし、次の時代に向けて新たな価値を生み出すことのできる人間

建造物や美術工芸品などの有形文化財、演劇・音楽・工芸技術などの無形文化財、風俗習慣・民俗芸能などの民俗文化財等、あいちに伝わる様々な文化の保存活用を図ることは、あいちに生きる人間としての役割の一つです。

また、個性豊かな歴史文化や食文化、今まさに創造されている美術、音楽、演劇などの芸術文化等、多様で魅力的な文化を発掘するとともに適切に保存・継承し、国内外に向けて発信していくのも、同じくあいちに生きる人間としての役割の一つと言えるでしょう。

そして、「ものづくりの精神」。あいちでは、織田信長の時代から職人が集い、技術を伝えてきました。その頃から現代まで、「ものづくり」の歴史が脈々と息づいています<sup>5</sup>。

あいちの「ものづくり」を発展させるためには、最先端の科学技術の活用、次代の技術革新に向かう研究が重要です。それと同時に、ものづくりに携わり発展させてきた人々の「創意工夫」「堅実さ」「まじめさ」「根気強さ」「緻密さ」などの精神も、併せて大切にしたいと考えます。

あいちの豊かな財産を継承し、そこから次の時代に向けて新たな価値あるものを生み出し発展させ、新たなあいちを創っていく。子どもたちが、そのような人間として育つことを願っています。



5 製造品出荷額等が昭和52年から37年連続第1位となり、平成25年の製造品出荷額等は、42兆18億円と、全国の14.4%を占めている。  
産業としては、自動車産業だけでなく、航空宇宙産業、ロボット産業、繊維産業、陶磁器産業等、多くの製造業が集積している。

## 【世界にはばたく】

### 次代を展望し、世界に視野を広げ活動することのできる人間

グローバル社会において、自身のアイデンティティと物事を多面的に捉える見方や考え方を身に付け、これからのあいちや世界を担っていく気概と意欲を持って活動することができる人間

グローバル化が進展する現在、様々な領域・分野において、多様な価値観を踏まえて思考し、判断することが必要になってきています。また、加速度的に変化し続ける今の社会においては、互いの知識や経験を集め、多くの情報をもとに次に進むべき方向を考えていく必要があります。

このような状況の中、あいちの子どもたちの大学進学実績をみると、県内の大学に進学した割合は、全国で最も高くなっています<sup>6</sup>。また、高校卒業後に就職した子どもたちの大半は、県内で就職しています。この結果については、地元志向が強いという土地柄と、進学先や就職先が県内に多くあるという恵まれた環境にいたことが理由として考えられますが、県内にとどまるにしても、グローバル化に対応する力が、これからますます必要な時代になっていきます。

これからは、あいちの子どもたちも、あいちの子どもたちだからこそ、世界の様々な事象に目を向け、自分の生活とのつながりを考え、行動することが必要です。そして、多様な人々と協働し、新たな未来を切りひらいていくことが求められます。

世界にはばたく。世界に通じる舞台が、若い世代の登場を待っています。子どもたちには、グローバル社会の中で、自身のアイデンティティを確かに持って、物事を多面的に捉える見方や考え方を身に付けてほしい、そして、これからのあいちや世界を担っていく気概と意欲を持って、自分の理想を胸に飛躍してほしいと願っています。



6 平成27年3月に愛知県内の高等学校を卒業し大学へ進学した生徒数37,935人のうち、愛知県内の大学に入学した生徒数は27,310人で、その割合は72.0%となっている。この割合は、全国第1位である。全国平均は、42.5%となっている。

### ③ 「あいちの人間像」を実現する五つの基本的な取組の方向

#### (1) 個に応じたきめ細かな教育を充実させ、一人一人の個性や可能性を伸ばします

一人一人の能力・適性や生活環境の違いなどに応じたきめ細かな教育に努め、子どもたちに確かな学力を身に付けさせるとともに、自己実現に向かって粘り強く努力しようとする思いを育みます。

- 子どもたち一人一人の違いに着目し、その個性や可能性を伸ばしていくことが教育の営みです。本県では、今までも小・中学校における少人数学級・少人数指導を通して、きめ細かな指導ができる体制づくりに取り組んできました。
- 高等学校においても、多様なニーズに対応できるように学科やコースを設置するとともに、地域や大学等との連携も取り入れ、将来の職業とのつながり、進学先の学問とのつながりを意識した指導を行っています。
- 個に応じたきめ細かな指導で大切になるのは、少人数で学習指導を行うということだけではなく、子どもたち一人一人の思いを大切にして指導を行うということです。学習の成果や自分の成長を実感できるように、また、課題解決に向けて諦めずに粘り強く努力していけるように、子どもたちに寄り添いながら、学習への意欲と自信を高めていくことが大切です。
- 最近では、障害のある子どもや日本語指導が必要な子ども、経済的に困難な状況にある子どもが増えてきており、個に応じた指導がより一層必要な状況となってきています。そのような子どもに目配りをして様子をつかみ、子どもたちが抱えている問題への支援を行うことが求められています。
- このような現状を踏まえ、子どもたちが自分の個性や可能性を伸ばし、自信を持って自己実現に向かっていけるよう、取組を進めていきます。

#### 取組の柱

- ① 個に応じたきめ細かな指導の充実
- ② 多様な学びを保障する学校・仕組みづくり
- ③ 特別支援教育の充実
- ④ 外国語教育の推進
- ⑤ 理数教育の推進
- ⑥ 情報教育の充実
- ⑦ 日本語指導が必要な子どもたちへの支援の充実
- ⑧ 貧困状態にある子どもたちへの支援の充実

## (2) 人としての在り方・生き方を考える教育を充実させ、道徳性・社会性を育みます

発達段階に応じて、命を大切にできる心や他人を思いやる心、人権を尊重する心などを育て、社会の一員として多様な人々と手を携えて生きていける、豊かな人間性を育みます。

- 情報通信技術が進展する中、子どもたちは学校でパソコンやタブレット等のICT<sup>1</sup>を活用して学ぶとともに、日常生活においても、パソコンやスマートフォンなどを使って、様々な情報を収集したりコミュニケーションをとったりすることが増えてきています。その反面、SNS<sup>2</sup>を利用したネット上のいじめ、個人情報の漏えい・悪意ある拡散、犯罪被害、ネット依存症などの問題が生じてきており、社会全体で解決すべき課題となっています。
- グローバル化の進展に伴い、様々な国の人々が日本を訪れるようになりました。特に、本県においては、産業の担い手として活躍する外国の人々が多く在住しており、その子どもたちの数も、とても多くなっています。また、保護者の国際結婚によって生まれた子どもや、外国で生まれたり幼児期を過ごしたりして日本に帰国した、いわゆる帰国児童生徒など、外国とつながる子どもたちも増え、子どもたちの社会も多様化してきています。
- このように姿を変える社会にあっても、自分や他の人の命をかけたがえのないものとして大切にできる心や、他の人の願いや痛みなどを思いやる心、自分の存在と同じように他者の存在を認め尊重する心などは、人が人として持つべき心として一層大切にしたい心であり、どの子どもにも持ってほしい、大きく育ててほしい心です。
- 子どもたちには、家庭や地域、学校で多くの人々と関わる様々な体験を通して、自分の在り方・生き方について考え、豊かな心を育ててほしいと願っています。そのためには、家庭はもとより、地域や学校も含んだ社会全体でその機会をつくり、連携して子どもたちを支援していくことが大切です。
- このような考えの下、他の人を思いやり、多様な価値観や考え方、生活習慣等を持つ人々と手を携えて生きていける豊かな人間性を、子どもたちに育てていきます。

### 取組の柱

- ⑨ 道徳教育の充実
- ⑩ 人権教育の推進
- ⑪ いじめ・不登校等への対応の充実
- ⑫ 主権者教育の推進

1 ICT: Information and Communication Technology (情報通信技術) の略。学校では、パソコンやタブレット等を導入し、子どもたちの情報活用能力の育成を図っている。

2 SNS: Social Networking Service の略。インターネット上の交流を通して社会的ネットワーク(ソーシャル・ネットワーク)を構築するサービス

### (3) 健やかな体と心を育む教育を充実させ、たくましく生きる力を育みます

家庭教育・幼児教育・学校教育を通して健やかな体と心を育むとともに、生涯にわたって安全で健康な生活を営むための基礎を培います。

- 子どもたちは、日頃の遊びの中で体力を身に付けていくものです。しかし、社会の変化に伴って、最近では、家の近くや公園で走り回る子どもたちの姿を見ることは少なくなりました。家に帰ってからの遊びといえばパソコンや携帯ゲームで、体を動かすのは体育の授業や昼休みだけ、という子どもが以前よりも増えています。一方、スポーツクラブなどに所属している子どもは日常的に運動しており、運動しない子どもとの体力の差が大きくなってきていると言われています。
- 食事に関していえば、好きなものだけを食べたり、ファストフードばかりを食べたりすることで栄養が偏り、肥満や生活習慣病になる子どもが見られます。また、家族みんなを食べられず、一人ぼっちで食べる「孤食(こしょく)」、みんなで食べても一人一人食べるものが違う「個食(こしょく)」など、食生活を営む上で様々な問題が生じています。
- 睡眠に関していえば、24時間昼夜を問わず動いている社会の中で、子どもたちがその悪影響を受けているという現実があります。午後9時を過ぎても大型店舗を保護者と共に歩いている幼児や小学生、夜遅く塾から帰る途中にコンビニエンスストアで飲食している中学生などを見かけることがあります。睡眠を犠牲にすることで体調を崩してしまう子どもたちが増えています。
- このような現状を改善するためには、保護者が子どもたちの生活習慣に関心と責任を持って、望ましい生活習慣が身に付くように支援することが大切です。そのことが、子どもたちの健やかな体と心を育むことにつながります。生涯にわたって安全で健康な生活を営むための基礎は、家庭で幼い頃から培っていく必要があります。
- 子どもたちが、健やかな体と心を持ち、社会の中で安心して成長していくための知識や技能を身に付けて、未来をたくましく生きていけるよう、関係部局・関係機関と連携を図りながら、その役割を果たしていきます。

#### ☞ 取組の柱

- ⑬ 家庭教育・子育ての支援の充実
- ⑭ 幼児教育の充実
- ⑮ 健康教育・食育の推進
- ⑯ 学校体育の充実
- ⑰ 安全教育の推進



#### (4) 未来への学びを充実させ、あいちを担う人材を育成します

キャリア教育をはじめ、子どもたちが将来生きていくうえでの羅針盤となる教育を充実させ、社会の激しい変化の中でも自分自身をしっかりと持って未来のあいちを担っていく人材を育てます。

- 子どもたちは、学校教育を終えた後、実社会に出ていきます。そのとき必要となるのは、学んできた知識や体験の量だけではなく、それらを結び付けて生活の中に生かし、決まった答えのない問題を解決していける力です。そして、その力は、知識や経験などを総合する学びによって身に付けていくものです。
- その学びの一つが、キャリア教育です。本県では今まで、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校それぞれの発達段階と実情とを踏まえたキャリア教育を推進してきました。その中で、職業や勤労について理解し、自分の生き方を考え、将来に向けての見通しを持つ子どもたちを育ててきました。今後も、産業界等との連携を深めながら、子どもたちが社会人・職業人として自立できるよう取組を進めていくことが大切です。
- 他にも、グローバル社会を生きるための学びや、持続可能な社会の在り方について考え実践するための学び等、知識や経験などを総合する取組を実践していく必要があります。
- 一方、本県に脈々と受け継がれてきた伝統と文化の担い手を育てることは、あいちの歴史と未来とを結ぶ大切な取組であるとともに、新たな文化を創造し発信できる人材を育てていくことでもあります。また、生涯にわたって学び続けられる機会、スポーツに親しむ機会を用意することは、子どもたちを含めた県民一人一人の人生を豊かにする取組であるとともに、あいちの未来を創造することにもつながっていきます。
- あいちの未来を担う子どもたち。その子どもたちが大人になり、社会で活躍する10年後、20年後にも生かすことのできる資質・能力を、今、目の前にいる子どもたちが身に付けられるよう、未来への学びの舞台をつくっていきます。

#### 取組の柱

- ⑱ 社会人・職業人としての自立に向けたキャリア教育の推進
- ⑲ グローバル化への対応の推進
- ⑳ 環境教育・ESDの推進
- ㉑ 「オリンピック・パラリンピック教育」の推進
- ㉒ 伝統文化・文化財の継承と新たな文化の創造
- ㉓ 生涯学習・スポーツの推進

## (5) 学びがいのある魅力的な教育環境づくりを進めます

子どもたちが、学ぶ喜びと学ぶ意味を感じられるよう、教職員の資質向上、教職員が子どもたちと向き合うための条件整備、学校施設・設備の整備等に努めます。

- 大量退職・大量採用の時代が進み、多くの若い教職員が学校に入ってきています。そのような中、子どもたちにとって魅力のある学校をつくっていくためには、「わかる授業」を行うこと、子どもたちの心に寄り添った指導をすること、一人一人に目配りをしながら敏感に子どもたちの変化をつかむことなど、教職員としての資質を向上させていくことが最も大切です。
- 同時に、教職員自身がやりがいを持って教育活動に専念できる環境を整えることが重要です。
- 特に、教職員が子どもたちと向き合うことのできる時間や、授業準備、教材研究等に取り組む時間を確保することが必要です。そのことが、子どもたちの学習状況や人間関係などをより深く理解すること、子どもたちの力を伸ばす授業をつくることにつながり、ひいては子どもたちの成長につながっていきます。
- あわせて、教育効果を上げるためのICT環境や教材、教具など、「わかる授業」づくりのための環境についても充実させていくことが必要です。
- 一方、現在の学校は、学習の内容や方法等をより充実させ、教育効果を十分に上げるために、地域や外部の人材の力を借りることが不可欠となっています。また、学校種間・学校設置者間の連携が必要な学びになってきています。その連携の仕組みをいかにつくっていくか、その仕組みによっていかに連携を強化していくかが今後の課題だと捉えています。
- 子どもたちが学ぶ喜びと学ぶ意味を感じられる、魅力のある学校にしていくために、市町村教育委員会や私立学校等、他の学校設置者とも協力をしながら、教育環境づくりとその支援に取り組んでいきます。

### 取組の柱

- ②④ 教員の養成・採用・研修の改善
- ②⑤ 開かれた学校づくりと多忙化解消への支援
- ②⑥ 学校施設・設備の充実
- ②⑦ 大学等高等教育の振興
- ②⑧ 私立学校の振興

## ④ 基本的な取組を推進するに当たっての四つの視点

基本的な取組を推進するに当たっては、以下の四つの視点を重視して、より効果的・効率的に取り組んでいきます。

### (1) 生きる力を育む家庭・地域・学校の取組の連携強化

家庭は、全ての教育の出発点として最も大切な場であり、家庭教育は、第一義的に保護者が責任を負うものです。家庭がその役割を果たせるように、地域や学校は家庭をサポートします。

- 子どもは、家庭教育の中で基本的な生活習慣や規範意識、人に対する信頼感、自己肯定感や自立心などを身に付けていきます。しかし、近年では、都市化や核家族化、少子高齢化、雇用環境の変化などにより、家庭そのものの有り様が変化してきています。
- そのために、例えば、祖父母や近所の子育て経験者などから子育てを学ぶことが難しくなってきたり、子どもとの関わり方に自信が持てず、子育てに孤立感を感じる保護者もいます。また、仕事と子育ての両立の難しさや、家族内の問題のために、子どもと十分関われないという問題を生じるケースもあります。その結果、家庭が教育の場としての機能を思うように果たせないことがあります。
- まずは、家庭教育の責任は、第一義的に保護者にあるという原則を改めて認識し、その考え方を共有することが必要です。その上で、保護者をサポートするために、それぞれの地域において、教育委員会が中心となって保護者が学んだり相談したりすることができる環境整備を進めていくことが重要です。
- 学校も、子どもに関する情報を発信したり、PTA活動などを通して研修を進めたりして、保護者が家庭教育について理解を深め、自信を持って我が子に向き合えるようにしていくことが必要です。そうすることにより、保護者が家庭教育の責任を果たす中で、子どもたちが基本的な生活習慣や規範意識、自己肯定感などを身に付けていくようにすることが大切です。

地域は、様々な立場や年代、考えの人々の集まりであり、子どもたちが多くの人々との関わりの中で、社会性を学ぶ大切な場です。地域がその役割を果たせるように、家庭や学校は地域との関わりを深めます。

- 以前、地域は、子どもたちを見守り、褒め、叱り、励ましながらその教育力を発揮し、家庭と共に子育てに関わるという役割を果たしてきました。その中で子どもたちは、自分の居場所を確かめ、役割を持ち、周りの大人たちに認められ、自己肯定感や自己有用感を育んできました。
- しかし、近年では、都市化や核家族化、人口減少などのために地域のつながりが希薄化し、地域住民の中にも、知らない他人の子どものことには口を出さない、という意識を持つ人が増えてきたため、かつてのような教育力を発揮することが難しくなっています。
- このような中、「地域の子どもたちは、地域で育てよう」という気運が出始めた地域では、住民が保護者や子どもたちと共に地域の伝統芸能やお祭りなどを復活させたり、地域の様々な行事を仕掛けたりして、住民同士のつながりを強めようと努力しています。
- 地域のきずなの復活は、地域の教育力の再生につながります。そして、そのことが、家庭教育を地域で支えることにつながります。元気なシニアが増えている今、その力を生かせる仕掛けを、行政が地域と協力しながらつくっていくことが必要です。また、学校も、地域で育つ子どもたちを見守ることができるように地域に足を運んだり、子どもたちが地域活動に参加できるような環境づくりを進めたりすることが大切です。

学校は、確かな学力や豊かな人間性、健やかな体の、いわゆる「生きる力」を育てる機能を持つ場です。これは、学校の不易の役割であり、どの時代にあっても変わりなく大切にしていかなければならないものです。学校がその役割を果たせるように、家庭や地域は学校を応援します。

- 校長のリーダーシップの下、教職員は目の前の子どもたちが健やかに成長することを願い、日々努力しています。それに加え、近年の学校では、教育効果を上げるため、様々な立場、専門性、特技を持った人々の力を借りて教育活動を行っています。学校運営協議会や学校支援地域本部などの組織を立ち上げ、地域に開かれた学校づくりを進めているところもあります。
- 学校が、教職員の専門性に加えて、保護者を含む地域の人材や外部の人材の力を借りて、教育効果を上げたり学校づくりを進めたりする取組は、今後もますます増えていくことが予想され、特に小・中学校においては、学校と地域との連携が一層進むことが期待されています。

- 地域の人材が学校の教育活動を助け、学校に集まった地域の人材が、学校を基点に地域づくりの核となる。学校も地域の資源として活用されて、子どもたちも地域の人材として育つ。そのことによって、学校と地域との連携、協働が強化されていく。このような姿が、近い将来、多くの地域で見られることを期待しています。
- そのために、保護者や地域は学校の応援団として協力し、学校は地域と共に発展する学校像を保護者や地域と共有していくことが大切です。また、地域の人材がコーディネーター役として地域と学校とをつないでいく仕組みをつくる必要があります。

## (2) 学校種・学校設置者の枠を越えた学びの連続性の重視

- 幼稚園(保育所・幼保連携型認定こども園<sup>1</sup>)、小学校、中学校、高等学校の学びは、それぞれの学校だけで完結するものではなく、学校種間の系統性を持って継続的に進めるべきものです。その考え方を踏まえて本県では、子どもの発達や教育課程等への理解を深め、教育効果を上げる一つの方策として、小・中学校間での教員人事異動を行っています。
- 多くの小・中学校では、日常的に様々な情報交換を行っており、中には、連携して行事や授業を行ったり、9年間を見通した教育課程を編成したりしているところもあります。また、幼児教育と小学校教育の円滑な接続の重要性を踏まえ、幼稚園(保育所・幼保連携型認定こども園)と小学校との間の連携体制を今まで以上に重視して、連絡会や合同の行事などを行っているところもあります。
- 中・高校間での連携については、北設楽地区、新城地区で連携型中高一貫教育校が地域に根差し、ふるさとをリードする人材の育成に成果を上げています。また、中・高校間で情報交換をしたり、合同で行事を行ったりするなど、連携を意識した取組を行っている地域も増えてきています。
- このように、学校種間の連携について、現在でも行われていることが多くありますが、今後はさらに、子どもの学びの連続性という観点から、市町村内や中学校区内を中心にどのように協働できるかを考え、そのための仕組みをつくっていくことが必要です。
- 一方、学校設置者別の観点で子どもたちを見ると、小・中学校については一部の国立・私立を除いて公立に通い、高等学校については約3分の1が私立に、残りが国立・公立に通っています。
- 幼稚園については約9割が私立に、残りが国立・公立に通っています。保育所については約7割が公立に、残りが私立に通っています。幼保連携型認定こども園については、ほぼ全てが私立に通っています(平成27年5月現在)。

1 幼保連携型認定こども園：認定こども園法の改正により、平成27年4月から「学校及び児童福祉施設としての法的位置付けを持つ単一の施設」として新たに創設されたもの

- 本県には、このような現状がありますが、「どの学校設置者の学校に通う子どもも、同じあいちの子ども」ということを基本的な認識として共有することが必要です。そして、それぞれの学校教育目標や建学の精神を踏まえつつ、国立・公立・私立という学校設置者の枠を越えて「あいちの人間像」の実現に向かっていくことが大切です。

### (3) 教育委員会・首長部局・関係機関相互の連携

- 多様化・複雑化している学校の教育活動については、学校と教育委員会との連携だけでは対応が難しく、学校、教育委員会と多くの関係機関との連携が必要な場合が増えてきています。
- 例えば、キャリア教育では多くの事業所や地域の人材に力を借りていますし、日本語指導が必要な外国人児童生徒等への指導については、NPOの力を借りています。生徒指導上の諸問題や発達上の問題、児童虐待等に関しては、警察や児童相談所等の力を借りています。
- また、自治体の内部でも、従来の行政組織の壁を越え、連携して取り組まなければならない場面が今まで以上に増えてきています。
- これからは、教育委員会・首長部局、関係機関が連携を強化しながら学校を支えていくことが必要であり、教育委員会はその仕組みづくりや働きかけを行っていくことが大切です。

### (4) 国籍・言葉・文化等の違いを越えた多様性の尊重

- グローバル化や新しい在留管理制度の導入に伴い、本県では外国籍の子どもたちが多く住むようになってきました。また、外国籍の子どもたちだけでなく、保護者の国際結婚によって生まれた子どもや、外国で生まれたり幼少期を過ごしたりして日本に帰国した、いわゆる帰国児童生徒など、外国とつながる子どもたちも増えてきています。
- 一方、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱及び発達障害等のある子どもや、性同一性障害等のある子どもなど、多様な子どもたちの姿があります。
- また、男女共同参画の推進や社会での女性の活躍促進等、固定的な役割分担によらず、男女の区別なくその能力を生かしていくことが求められています。
- 「学校は社会の縮図である」と言われますが、子どもたちが、様々な違いを認め合い多様な価値観を尊重できるように、また、性別によって活躍の場が固定化されたり人権侵害を受けたりすることなくその能力を開花できるように、教育活動を展開していく必要があります。
- 国籍、言葉、文化等の違いによって差別されない、それぞれの多様性が尊重される社会の実現に向けて、これからも全ての県民が努力していく必要があります。学校においても、どの子どもも自分らしく生きられるよう、子どもたちの多様性が尊重される教育の推進が求められます。

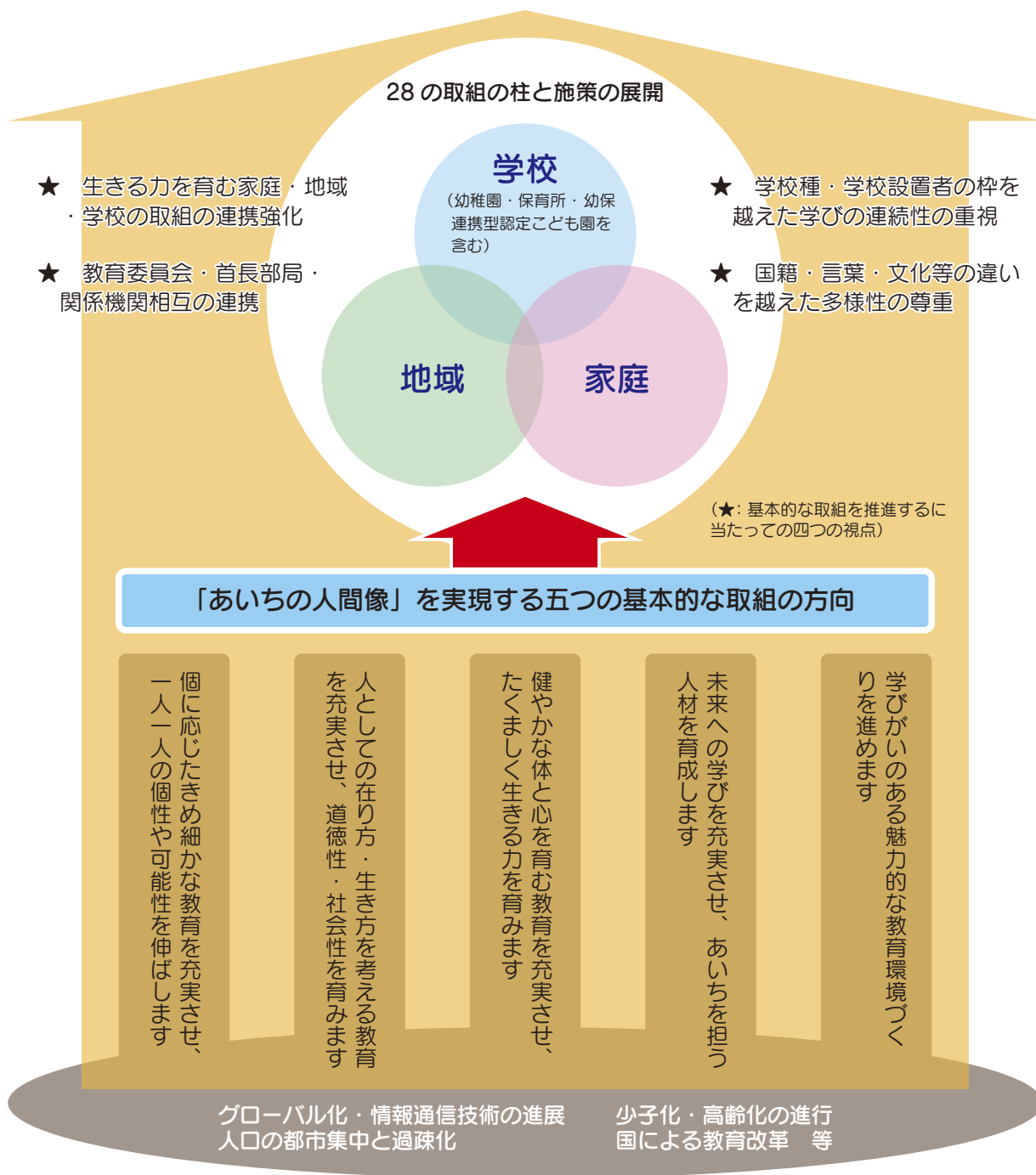
## イメージ図

### 基本理念

「自らを高めること」と「社会に役立つこと」を基本的視点とした「あいちの人間像」の実現

#### めざす「あいちの人間像」

- 【共に生きる】 自他の命を大切に、多様な人々の存在を尊重して生きることのできる人間
- 【自分を生かす】 互いに切磋琢磨し、自らの力を社会に生かすことのできる人間
- 【学び続ける】 生涯にわたって健やかな体と心をつちかい、学び続けることのできる人間
- 【あいちを創る】 あいちの伝統と文化、「ものづくりの精神」を継承し、新たな価値を生み出すことのできる人間
- 【世界にはばたく】 次代を展望し、世界に視野を広げ活動することのできる人間





▲よーい、どん ～小学校の運動会～



▲思いを形に  
～高等学校のろくろ実習・陶芸～